鈴木貫太郎記念館の再建に係るこれまでの経緯について

１　施設の概要

終戦時の内閣総理大臣鈴木貫太郎翁の生涯とその功績を広く紹介するための施設であり、財団法人鈴木貫太郎記念会により建設され、昭和 38 年に開館した。後の昭和 41 年に関宿町へ移管され、平成 15 年の市町村合併を経て、現在は野田市で管理している。

(1) 名　称：野田市鈴木貫太郎記念館
(2) 所在地：野田市関宿町 1273 番地
(3) 休館前主な展示資料
- 鈴木貫太郎翁着用海軍礼服一式
- 鈴木タカ夫人着用十二単
- 迪宮殿下（のちの昭和天皇）着用子ども服
- 男爵爵位状
- 辞令書（内閣総理大臣辞任・枢密院議長就任）
- 手紙（鈴木貫太郎翁からタカ夫人に宛てた近況報告）
- 油彩画（最後の御前会議、８月９日の御前会議、二．二六事件鈴木侍従長遭難など）
- 食器類（皇后下賜品）など

２　鈴木貫太郎翁について

鈴木貫太郎（1868.1.18 - 1948.4.17）について

第 42 代内閣総理大臣(昭和 20 年４月７日～昭和 20 年８月１７日)。

関宿藩飛地領の代官鈴木由哲の長男として和泉国（現大阪府堺市）で生まれ、幼少期を関宿（現野田市）で過ごす。

海軍軍人として日清日露の両戦役に従軍し、海軍大将まで昇進すると、連合艦隊司令長官や軍令部長などを歴任したのち侍従長に就任する。

侍従長時代には二・二六事件に遭遇し、瀕死の重傷を負うも奇跡的に回復し一命を取り留めた。

枢密院議長を経て、昭和 20 年４月７日内閣総理大臣に就任すると、日本の終戦に尽力した。戦後は職を辞し、郷里の関宿に戻るが、吉田茂の要請で再び枢密院議長に就任し、憲法の改正に携わる。

議長辞職後は関宿の主要な産業となる酪農の普及に努め、昭和 23 年４月１７日に没した。最後の言葉は「永遠の平和、永遠の平和」と伝わる。

なお、夫人のタカは昭和天皇の幼少期に養育係を勤めた人物である。

３　現鈴木貫太郎記念館の建設・開館までの経緯

鈴木貫太郎記念館の開館は、吉田茂や鈴木内閣を支えた下村宏、迫水久常、町村金吾らと中央政財界の鳩山一郎や村瀬直養らを中心に組織された「鈴木貫太郎記念太平会」、関宿や野田の首長や千葉県知事などの地元関係者が中心となる「財団法人鈴木貫太郎記念会」がそれぞれの立場で展開した鈴木貫太郎翁の顕彰活動が一体となり実現した。

「太平会」は座談会や伝記の編纂などを行い、「記念会」は記念館の建設を主たる目的として事業の活動をしており、記念館建設を機に活動の拡充を図るため名誉総裁を吉田茂とし、内閣総理大臣の佐藤栄作や東京都知事の東龍太郎などを組織に加えた。（別紙１）

記念館の建設費として県補助金や市町村負担金に加え、自治体や企業などからの巨額の寄附金が集められたことは、地域の資料館建設としては極めて異例のことと言える。

それは、中央政財界の存在と地元の貫太郎翁を偲ぶ想いにより成しえたものである。

４　現記念館の建設内容

(1) 敷地面積　3,084.25 ㎡（登記簿による。駐車場及び集乳所を除く。）
(2) 建築面積　　268.58 ㎡
(3) 構　　造　鉄筋コンクリート造　平屋建て
(4) 発 注 者　財団法人　鈴木貫太郎記念会（鈴木貫太郎記念館建設委員会）
　　名誉会長　千葉県知事　柴田　等
　　会長　　野田市長　　戸辺織太郎
　　副会長　　関宿町長　　須賀　清八
　　流山町長　　田中　芳夫
　　先心会代表　浜野　政三
(5) 設 計 者　創建築設計事務所
(6) 請 負 者　東京社寺工務店
(7) 建 築 費　建設費　１，５４８万円
　　（うち建築費 1,200 万円、雑費 348 万円）
(8) 補助金及び寄付金等　（昭和 37 年当時）
　○県補助金　　２００万円
　○市町村負担金　　５６７万円
　（史料から確認できたものは、次のとおり）

市町村名	負担額
松戸市、柏市	各 10 万円
佐倉市、習志野市、木更津市、館山市、沼南町、流山	各５万円

町、鎌ケ谷町、我孫子町、浦安町、五霞村（茨城県）、杉戸町（埼玉県）	
長南町、本納町、富里村、飯岡町、富浦町、市原町、五井町、姉崎町、市津町、三和町、南総町、加茂村、鴨川町、千倉町、長狭町、丸山町、和田町、平川町、栄町、白井町、四街道町、天津小湊町	各３万円

〇寄附金　　７８１万円

寄附者名	寄附金額
関宿町	２００万円
野田市	１００万円
その他	４８１万円

５　休館から再建の検討までの経緯

(1)　令和元年 10 月の台風 19 号の影響により記念館で雨漏りが発生したため、展示資料の緊急避難を実施し、臨時的に休館となった。

所蔵資料の損壊等は最小限であったため、早期の再開を目指し改修工事を計画した。

(2)　令和２年４月に耐震診断を行ったところ、コンクリートが低強度であることから補強が困難であるとの診断結果が出る。

(3)　令和２年９月議会で、地元の「関宿を語る会」から新たな記念館の早期開館を求める請願が提出され、採択される。

(4)　令和２年 12 月議会で、現在の記念館は、耐震診断により補強が困難であるとの結果により、以下の点を踏まえ、建て替えや民間を含む既存施設の活用など、あらゆる方向から開館を検討していくことを報告した。

・令和７年の開館を目標に、整備基本構想の策定や整備候補地の選定、クラウドファンディングによる寄附を活用した建設費用の一部捻出などを行う。

・極めて厳しい財政状況の中、単独で建設費用を確保するのは難しいことから、補助金の活用や国への働きかけを行いつつ、令和３年度に地元の方や有識者などによる検討委員会を立ち上げ、検討する。

・建設場所については、貫太郎翁が晩年を過ごした関宿にあることに意義があると考え、地元の意向も確認しつつ、関宿の中で候補地を選定する。

(5)　令和３年３月議会で、再建にあたり、観光施策と一体になって発展させるため、所管を教育委員会から市長部局に移すとともに、施設管理は引き続き教育委員会が行うこととし、条例を改正した。

再建については、学識経験者、地元関係者、記念館副館長、教育長、市史編さん担当職員及び市長を委員とする野田市鈴木貫太郎記念館建設準備委員会を立ち上げ、建設候補地及び施設規模など、記念館整備の基本構想の案を策定することとした。

委員会での検討がまとまった段階で、（仮称）野田市鈴木貫太郎記念館建設検討審議会を立ち上げ、審議会には、観光協会、商工団体、酪農団体、公募委員のほか、市議会からも参画いただき、令和７年の再開を目指し、オール野田市で記念館再建の基本計画を策定する考えを報告した。

(6)　令和３年６月に専門委員を１人選任した。（記念館副館長　筑井正氏）専門委員には、類似施設への視察や資金確保に関する情報収集などの活動を委嘱した。併せて、寄附の受皿として基金条例を制定し、野田市鈴木貫太郎記念館再建基金を設置した。

(7)　令和３年９月議会で、鈴木貫太郎記念館再建基金について、広く全国から寄附を募るため、市のふるさと納税の使途に追加して募集を開始することを報告した。

なお、記念館の東側に市所有地があり、現在ＪＡちば東葛の関宿集乳所として使用されているが、施設の老朽化に伴い、建て替えを検討していることから、集乳所やその北側の土地を記念館の新たな建設地として現在の記念館用地と一体的に活用することができると考え、ＪＡちば東葛と酪農部会に対し集乳所を関宿あおぞら広場の一部を活用して建設することを提案した。

ＪＡちば東葛は、基本的な方向性について理解したが、その後、酪農部会から集乳所を現在の場所で建て替えたいとの意向が再度示されたり、ＪＡちば東葛から関宿あおぞら広場への移転が最適との考えが示されたこともあり、以降も移転先の協議を続けた。

(8)　令和３年 11 月には、千葉県知事との意見交換会が行われ、その席で、鈴木貫太郎記念館再建について、千葉県として野田市とともに主体的に取り組んでもらうよう要請した。

(9)　令和４年６月議会で、記念館と集乳所の建設地の考え方について、これまでの歴史や経緯に基づく考え方を尊重し、建設候補地決定に当たって最も重視すべきは、地元関係者の理解を得るという原点に立ち返り、

今までの市の方針に必ずしもとらわれない形で、改めて地元関係者との話合いを進めることを報告した。

また、市の考えとして、集乳所跡地には、酪農家の深い思い入れがあることを尊重するとともに、現在の記念館は保存しても利活用することが難しく、維持管理費がかさむだけとなることから、現在の記念館が建つ場所に新たに建て替えることが最もふさわしいと判断したことも併せて報告した。

(10) 令和４年 10 月８日に、関宿公民館で「鈴木貫太郎記念館の再建に伴う説明会」を開催し、地元の自治会長や酪農家、関宿を語る会から 23 人に参加いただいた。

説明会では、記念館のシンボルである「萬世のために太平を開かん」と書かれた塔は残しつつ、現在の記念館は取り壊して、その跡地に再建したいと考えていることや、現在の記念館は、模型を製作するなどして、当時の建設の動きから開館までの歴史を語り継いで行きたいと考えていることなどを説明し、理解をいただいた。

(11) 令和５年２月 21 日に、建設の検討を早急に行うため、鈴木貫太郎記念館建設準備委員会を開催することとした。